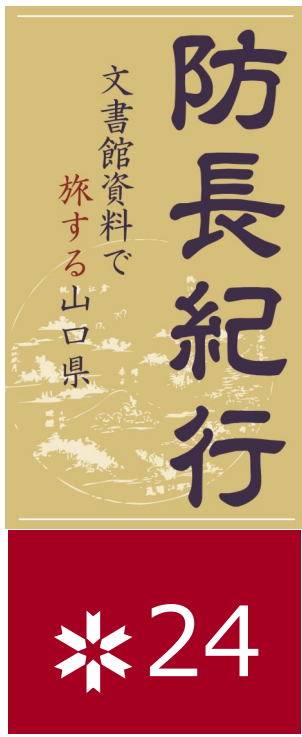




防長島々絵図（県庁伝来旧藩記録169）



藩政時代の島々をめぐる絵図

《「防長島々絵図」とは》

「防長島々絵図」は萩藩が作成したもので、防長海上に浮かぶ島々を描いた彩色絵図です。石見・長門国境に位置する阿武郡田万村(現萩市下田万)沖の伊島に始まり、日本海、響灘の島を描いた後、下関を回って瀬戸内の島へと進み、安芸・周防国境、岩国沖の甲島で終わります。支藩領の島も描かれています。ただし、萩沖の見島、大島郡の屋代島はこの絵図には描かれていません。

折本形態で、閉じた状態での大きさは縦27.5cm、横14.5cm、厚さは2.0cm。1丁開いた状態での幅は29cmです。全部で63丁あり、すべて展開した場合は、18.3mにも及びます。

奥書には「以上、嶋数百五十八ヶ所、内、長州六十二ヶ嶋・防州九十六ヶ嶋」とありますが、絵図で実際に数えてみると、長門国内71島、周防国内101島、計172島が描かれています。郡別では、島数の多い順に、大島47、阿武30、大津

25、都濃21、豊浦16、吉敷13、玖珂8、佐波5、熊毛4、厚狭1、ほかに阿武・大津郡境1(三見・通沖の壁島)、長門・周防境1(鍋島)です。

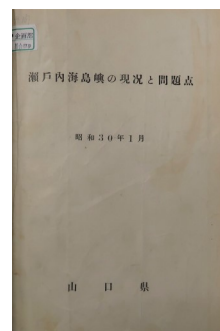
《絵図に記される島の情報》

各島には、①東西南北の距離、②陸地からの距離、有人島であれば、③家数、④田畠石高、⑤寺、神社、御堂の有無が記されています。島の説明として、「岩山(岩)」「松山(小松山)」「松茅山」「木山」「茅山」「草山」「柴山」「竹山」「雑木山」「野山」「篠山」などの表現があります。阿武郡木与村(現阿武町)沖の野島、萩沖の大島、相島は「隼ノ巢所有之」と記されており、また、都濃郡下松西市沖の古島には「島内二水池有之」とあり、島内に池らしきものが描かれています。

簡潔ながら、各島の特長、島で手に入る資源など、島の有用性に関する情報が盛り込まれている点が注目されます。

《絵図にみえる有人島》

図に描かれた有人島は32あります。もっ



全国・山口県の島数

国土地理院によれば全国の島数は14,125、このうち本土を除く離島が14,120、有人島が417、無人島が13,704です(国土地理院HP)。山口県内の有人離島は、橋でつながる角島を含め22島です(県中山間・地域振興課HP)。上掲写真は昭和30年山口県編『瀬戸内海島嶼の現況と問題点』(行政資料50総務85)。

とも家数が多いのが青海島(現長門市)の250軒、以下100軒以上が住む島は、平郡島(現柳井市)190軒、長島(現上関町)184軒、彦島(現下関市)124軒、角島(同)100軒です。一方、家数10軒以下の島には、大島郡立島2軒、都濃郡竹島3軒、豊浦郡小通島が5軒、阿武郡尾島7軒、都濃郡杵島9軒があります。

《作成時期と経緯》

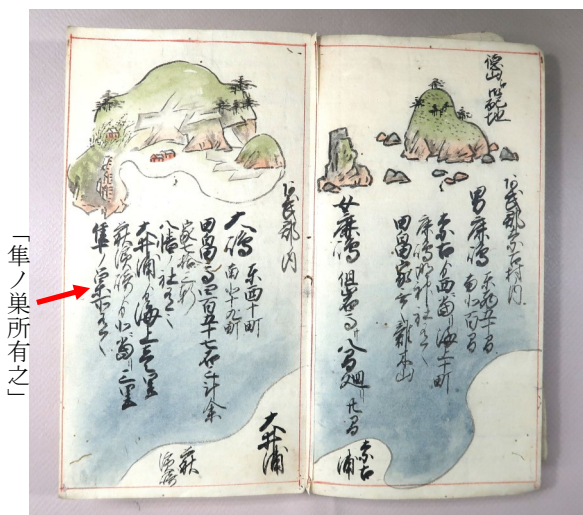
絵図はいつ作成されたものでしょう。明和元年(1764)作成の萩藩絵図方の所蔵品目録(9諸省40<17の6))の中に、貞享元年(1684)作成の「島々図折本」がみえており、これにつき絵図方は次のように説明しています。

「3代藩主毛利吉就様が御国廻り(貞享元年9~10月)を終えられた後、当職毛利市正様に『防長両国内の嶋々絵図を作成するように』と命じられ、これを受け毛利市正様から代官中へ指示が下り、各宰判から(島々絵

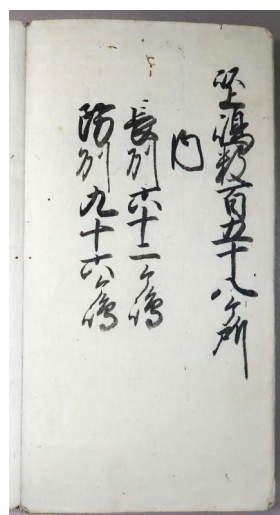
図の)下書が提出され、これを絵図方で折本に仕立て、上程したものの控です。」

現在残る「防長島々絵図」は、ここにみえる絵図方作成の「島々図折本」にあたるようです(山田稔「萩藩絵図方関係年表(図版編)」『山口県文書館研究紀要』第39号)。絵図に各島の詳細な情報が盛り込まれていることも、代官の指示で地元から提出された「下書」を元に作成されたとすれば納得できます。この絵図は、18世紀中期の地誌「地下上申」より約半世紀早い、17世紀後期の島々の様子を示す資料なのです。ただし、吉就がこの絵図を求めた理由は不明で、これは今後の検討課題です。

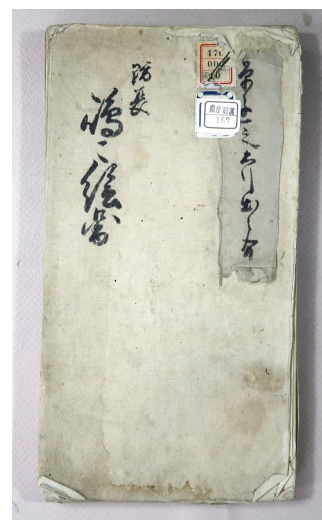
なお絵図中には、正徳元年(1711)6月、5代藩主吉元が、大島郡内の祝島・牛島・佐郷島・馬島・八島に関し、上関代官へ追加情報の提出を求めたことが追記されています。絵図作成後も藩主により活用されていたようです。



大井浦沖の大島(左)と奈古沖の男女鹿島(右)



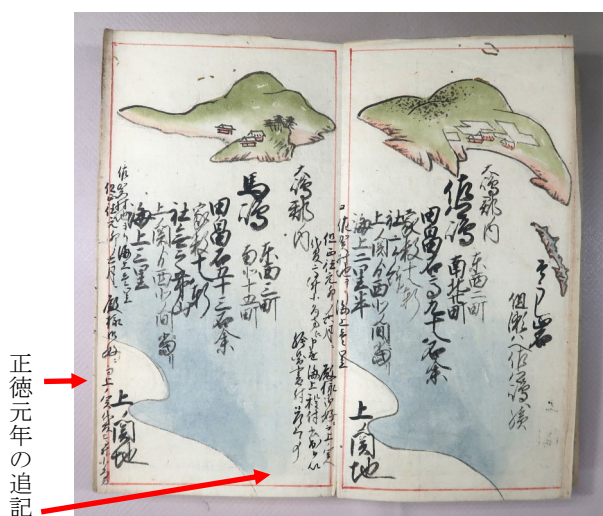
奥書



表紙



六蓮島(左)と蓋井島(右)



馬島(左)と佐郷島(右)